

## 豪雇用統計は精査必要

- ◆豪ドルの上値は限定的か、当面の更なるテーパリング期待が無くなる
- ◆豪ドル乱高下も、雇用統計は詳細の精査が必要
- ◆ZAR、SARB 総裁は低金利維持を目標とすることで上値は限定的か

### 予想レンジ

豪ドル円 78.00-83.00 円

南ア・ランド円 7.40-7.90 円

### 9月13日週の展望

豪ドルの上値は限られるか。豪準備銀行（RBA）は理事会後の声明文で、週 40 億豪ドルの割合で 2022 年 2 月まで国債購入を継続すると発表。当面は更なるテーパリング期待がなくなり、豪ドルの上値は重くなる可能性がある。豪州ではデルタ株を中心とした新型コロナウイルス感染拡大で、経済回復が停滞することが予想されている。来週も感染状況次第で豪ドルの上値は抑えられるだろう。来週は複数の経済指標の発表が予定されているが、注目度が高いのは 8 月の豪雇用統計。7 月は失業率が 4.6%（市場予想 5.0%）、新規雇用者数 2200 人増（予想 4.62 万人減）となり、ヘッドラインは好結果だった。しかしながら、常勤が 4200 人減少したのに対し、非常勤が 6400 人増加、労働参加率も 66.2%から 66.0%まで減少した。オーストラリア統計局（ABS）が「能力の限界で仕事を探すことをあきらめた失業者が、労働力人口から省かれている」と発表したように、就活を諦めている失業者が増加している。また、月間の労働時間が 6 月の 17 億 8100 万時間から 17 億 7800 億時間まで減少。労働時間の減少は兼ねてから問題視され、デルタ株感染対策のロックダウンの影響によるものが大きい。7 月はニューサウスウェールズ（NSW）州では 7.0%も労働時間が減少したが、8 月に入り NSW 州とビクトリア州で厳格なロックダウンが延長されていることを考えると、8 月の労働時間は更に減少している可能性がある。労働時間減少は所得の減少につながるため、経済的に大きな問題となる。雇用情勢が以前よりも複雑になっていることで、表面的な新規雇用や失業率だけでなく、その内容を精査する必要がありそうだ。

南アフリカ・ランド（ZAR）の上値は限られるか。クガニャゴ南アフリカ準備銀行（SARB）総裁が「インフレ目標を現行の 3-6%ではなく、3-4%程度かつ±1%の誤差を認めることが有益」と発言。南ア CPI は前年比で 7 月が+4.6%、6 月は+4.9%だったことですでに目標を上回っており、市場では利上げ観測からランド買いでの反応となった。しかし、SARB 総裁は「インフレ目標が高いことが、高インフレ国から抜け出せない要因」と説明し、低金利維持のためにインフレ目標を引き下げたい考えを示した。また、目標達成のために政府と協力し、電気や水などの価格引き下げを目指すことが必要と促した。SARB 総裁としては「政府が高いインフレ目標に甘えているから、一向に高インフレ国から抜け出すことができないというスタンス。利上げを否定している」との見方も台頭している。なお、来週の経済指標では 7 月の小売売上高に注目したい。

### 9月6日週の回顧

豪ドルは上値が重かった。RBA 理事会後に週 50 億豪ドルから週 40 億豪ドルに国債購入額が変更されたことで一時的に買われたが、購入期間がこれまでの 11 月中旬から来年 2 月中旬までに延長。更なるテーパリングの後退で一転して弱含むことになった。

ZAR は対ドル、対円ともに小高く推移した。SARB 総裁のインフレ目標水準の変更発言が利上げ期待を高めたことから、対円では一時 7 月上旬以来の水準までじり高となった。（了）